

大人気  
11ぴきのねこシリーズ  
第5弾!

# 11ぴきのねこと へんなねこ

原作：馬場のぼる  
(こぐま社刊)

脚色・演出／東口次登 人形美術／永島梨枝子 舞台美術／西島加寿子  
音楽／一ノ瀬季生 歌／MJ歌い隊☆子どもあざぎり 歌唱指導／永野朱美  
照明／永山康英 舞台監督／梶川唱太 制作／松澤美保 写真／田嶋哲  
出演者／三木孝信・高平和子・菅賢吉・西島加寿子・福永朋子・鶴巻靖子  
藤田光平・梶川唱太・竹内佑子・茨木新平・日高拍・臼井萌

絵本11ぴきのねこ誕生から50年  
馬場のぼるさん生誕90周年

馬場のぼるさん略歴



1927年10月18日、青森県三戸町に生まれる。  
1949年に上京し漫画家としてスタートする。  
絵本11ぴきのねこシリーズは1967年に始まる。その作品は、ほのぼのと暖かい画風と深みのあるユーモア、独特の語り口で、幅広い人々の人気を集めている。

ものがたり

11ぴきのねこが魚釣りをしているところに、黒い長靴をはいてポロポロの傘をさした水玉模様のへんなねこが通りかかりました。ねこたちは気になって気になって仕方ありません。後をつけてみると、どうやら家が壊れて困っているようです。

11ぴきは「おもしろそう!」と一緒に修理してあげることにしました。

ところが、家だと思っていたものは実は宇宙船で、へんなねこは星の世界から来た“宇宙ねこ”だといいます。宇宙船は直り、へんなねこは水玉模様をピカピカ光らせて喜びました。「あしたのよる、そらにこぐま座がかがやいたら、さよならね。」それを聞いて11ぴきのねこは寂しくなりますが、宇宙旅行をしてみたいと、こっそり宇宙船に乗り込みます。

11ぴきのねこたちが、わがままでやんちゃなのに暖かく可愛らしいのは、生き生きとして、それぞれが自己肯定できているからなのでしょう。宇宙からやってきた、へんなねこだって負けていません。とぼけているようで、抜け目が無く、11ぴきよりたくましいぐらいです。そして、うれしい時は光るのです。素敵な宇宙を想像しながら、観ている子どもたちもうれしくなって光りだすような人形劇をお届けします。ぜひお楽しみ下さい!

脚色・演出／東口次登



まっつるよ  
ピパホールで

